

源兵衛川

～地域関係者が一体となって維持管理をしている水路～

中郷地域は1/200の勾配を持つ平坦地であり、さらに、2つの川に挟まれているので、米を育てるための好条件が揃っていた。しかし、広く水田を開発するためには、中央を走る幹線水路が必要であった。そこで、16世紀に三島（北伊豆）の有力者である寺尾源兵衛氏が、中郷地域の11ヶ村の耕地に広くかんがいするために水路を建設した。

水路の護岸の多くは世界文化遺産である富士山から噴出した溶岩を活用した石積みとなっている。水路の計画にも当時としては先進的な工夫が見られる。富士山に積もった雪解け水が地下水となって湧き出た水は冷たいため、上流部の水路幅を広く、水深を浅く設計し、水温の上昇を図っている。また、高所に流路を定めて広範囲へのかんがいを可能としている。この用水のおかげで周辺は豊かな水田地帯に生まれ変わった。また、近代の改修事業では水温上昇のための池が建設されている。

都市化により水質が非常に悪化した時期があったが、環境配慮型の改修事業を含む環境保全への取り組みにより、水質は回復した。また、施設管理者でもあるNPOが3年間で200回以上のワークショップを開催するなど、水管理組織のみならず、市民・NPO・行政・企業・農業者・水管理組織がパートナーシップを組んだ水質保全・維持管理システムが確立している。



1960年代



現代



水温上昇のためのため池と富士山



日本国内位置図